

【令和4年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

項目 No.	R4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																
01	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 長期的に安定した運営に必要な医療従事者等を確保するため、計画的・効果的な職員採用に努める。 また、働き方改革に向けた医師のタスク・シフト(シェア)を進めるため、看護師、コメディカル等の安定的な確保と適切な配置を目指す。</p> <p>3 医師、看護師、コメディカル等の人材育成の充実 【医師】 国内外先進病院への研修派遣により、優れた医師を養成する。 また、高度専門医療の水準の維持・向上のため、専門医や研修指導医等の取得に向けた研修体制の充実(各種学会や研修会参加支援等)を図る。 【看護師】 より水準の高い看護を提供するため、認定看護師や専門看護師、特定行為看護師等の資格取得又は認定看護管理者の資格取得を目指す看護師に対</p>	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 ・看護師の確保については、年度途中の退職者を見込み年度当初に79人、年度途中2人採用することで、長時間勤務やローテーション維持等についての改善を図るとともに、診療報酬の要件である7:1看護体制を上回る体制を確保できた。 ・定年退職した医師を再雇用することで、人員の確保に努めた。</p> <p>○医療従事者の確保状況 単位:人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤医師数</td> <td>182</td> <td>185</td> <td>188</td> </tr> <tr> <td>うち再雇用医師</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>常勤歯科医師数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>常勤看護師数</td> <td>691</td> <td>720</td> <td>719</td> </tr> <tr> <td>常勤コメディカル数</td> <td>254</td> <td>265</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>医療クランク</td> <td>55</td> <td>61</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>看護補助職員</td> <td>96</td> <td>95</td> <td>93</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度末現在</p> <p>3 医師、看護師、コメディカル等の人材育成の充実 【医師】 ・高度専門医療の水準の維持・向上のため、専門医や研修指導医等の取得に向けた研修体制の充実を図った。</p>	項目/年度	2020	2021	2022	常勤医師数	182	185	188	うち再雇用医師	7	7	7	常勤歯科医師数	4	4	4	常勤看護師数	691	720	719	常勤コメディカル数	254	265	278	医療クランク	55	61	55	看護補助職員	96	95	93	IV		
項目/年度	2020	2021	2022																																		
常勤医師数	182	185	188																																		
うち再雇用医師	7	7	7																																		
常勤歯科医師数	4	4	4																																		
常勤看護師数	691	720	719																																		
常勤コメディカル数	254	265	278																																		
医療クランク	55	61	55																																		
看護補助職員	96	95	93																																		

項目 No.	R 4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																					
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																				
	<p>しては、中長期的に研修・講習に参加できる体制を引き続き確保する。また、特定行為看護師については、特定行為看護師指定研修機関として引き続き外科術後病棟管理領域パッケージを院内外の看護師に対して実施し、より高度な医療に対応できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度受講予定 専門看護師1人（がん看護3年目） 特定行為看護師5人（急性期診療モデル1人、外科術後領域4人） 認定特定看護師1人（クリティカルケア） 認定看護管理者6人（ファーストレベル4人、セカンドレベル2人） ・2022年度資格試験予定 認定看護師1人（感染管理）、認定特定看護師1人（摂食嚥下） <p>【コメディカル】 診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門性の向上に向性の向上に向けた研修・講習会けた研修・講習会、タスク・シフト（シェア）に関する研修会、タスク・シフト（シェア）に関する研修会への参加を支援し、高度への参加を支援し、高度医療に対する知識・技術を有する職員を養成する。医療に対する知識・技術を有する職員を養成する。</p> <p>4 高度先端医療の推進 高度先端医療など新しい医療技術について研究及び研修を行うとともに、高齢化社会に向けた</p>	<p>○医師の研修派遣・受入実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>受入</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>○専門医や研修指導医等の取得に向けた研修、学会・セミナー等の派遣実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>563</td> <td>730</td> <td>817</td> </tr> </tbody> </table> <p>【看護師】 ・認定看護師等長期研修5カ年計画に基づき、計画的に認定看護師や専門看護師の資格取得のための研修・講習に参加できる体制を確保した。また、看護師特定行為研修指定研修機関として、当センターの看護師に加え、外部の看護師も受け入れる等、特定行為看護師を育成する役割を果たした。</p> <p>○認定看護師等資格取得者登録状況 単位：人</p>	項目／年度	2020	2021	2022	派遣	2	1	2	受入	3	3	0		2020	2021	2022		563	730	817			
項目／年度	2020	2021	2022																						
派遣	2	1	2																						
受入	3	3	0																						
	2020	2021	2022																						
	563	730	817																						

項目 No.	R 4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																																																																																																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																																																		
	<p>より低侵襲な治療を積極的に導入する。また、がんや小児の分野におけるゲノム医療を積極的に取り組み、遺伝子レベルで病態を把握することにより、個々の患者に合った最適な医療を効率的に提供する。</p> <p>5 専門性を発揮したチーム医療の推進 医師・看護師・薬剤師のほか、コメディカル等の専門的知識を有した医療従事者が、医療ニーズに合わせたより質の高い医療を提供するために協働及び連携し、情報の共有化を行う。 また、チーム医療を進める上で、医療従事者は専門性の高い知識や技術を習得し、ガイドラインやプロトコル等を活用した治療の標準化の浸透を図る。</p> <p>6 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用 準夜帯や深夜帯における放射線専門医による画像コンサルテーションを引き続き実施するとともに、画像診断や内視鏡検査等におけるICTやAIの動向を注視し、活用を検討することにより、医師の負担軽減を図り、より安全かつ質の高い医療を提供できるよう努める。</p> <p>7 入退院支援の充実 患者の状態や社会的背景に応じて、入院前から退院まで患者が安心して過ごせるよう支援する総合サポートセンターを中心に、入退院支援の充実を図る。入院時支援の対象診療科については、現在支援中の7診療科に加え、徐々に診療科を拡大し、更なる充実を図る。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>がん化学療法</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>がん性疼痛</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>感染管理</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>救急看護</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小児救急</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>摂食・嚥下障害</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>皮膚・排泄ケア</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>新生児集中ケア</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>集中ケア</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>糖尿病看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>がん放射線療法看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>乳がん看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>慢性心不全</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認知症</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>脳卒中リハビリテーション</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>手術看護</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>精神科看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>32</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>専門計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小児看護</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>がん看護</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>特定行為</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>創傷管理モデル</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>術中麻酔管理モデル</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>外科術後管理領域</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>認定遺伝カウンセラー</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>37</td> <td>42</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	認定				がん化学療法	3	3	3	がん性疼痛	2	2	2	感染管理	3	3	4	救急看護	2	2	2	小児救急	1	1	1	摂食・嚥下障害	1	1	2	皮膚・排泄ケア	3	3	2	新生児集中ケア	2	1	2	集中ケア	2	2	2	糖尿病看護	1	1	0	がん放射線療法看護	1	1	1	乳がん看護	1	1	1	認定看護管理者	2	3	3	慢性心不全	1	1	1	緩和ケア	1	1	1	認知症	2	2	2	脳卒中リハビリテーション	1	1	1	手術看護	1	2	2	精神科看護	1	1	1	計	31	32	33	専門計				小児看護	2	2	2	がん看護	1	1	0	計	3	3	2	特定行為				創傷管理モデル	1	1	1	術中麻酔管理モデル	2	3	4	外科術後管理領域	0	2	6	計	3	6	11	認定遺伝カウンセラー	0	1	1	合計	37	42	47			
項目/年度	2020	2021	2022																																																																																																																																						
認定																																																																																																																																									
がん化学療法	3	3	3																																																																																																																																						
がん性疼痛	2	2	2																																																																																																																																						
感染管理	3	3	4																																																																																																																																						
救急看護	2	2	2																																																																																																																																						
小児救急	1	1	1																																																																																																																																						
摂食・嚥下障害	1	1	2																																																																																																																																						
皮膚・排泄ケア	3	3	2																																																																																																																																						
新生児集中ケア	2	1	2																																																																																																																																						
集中ケア	2	2	2																																																																																																																																						
糖尿病看護	1	1	0																																																																																																																																						
がん放射線療法看護	1	1	1																																																																																																																																						
乳がん看護	1	1	1																																																																																																																																						
認定看護管理者	2	3	3																																																																																																																																						
慢性心不全	1	1	1																																																																																																																																						
緩和ケア	1	1	1																																																																																																																																						
認知症	2	2	2																																																																																																																																						
脳卒中リハビリテーション	1	1	1																																																																																																																																						
手術看護	1	2	2																																																																																																																																						
精神科看護	1	1	1																																																																																																																																						
計	31	32	33																																																																																																																																						
専門計																																																																																																																																									
小児看護	2	2	2																																																																																																																																						
がん看護	1	1	0																																																																																																																																						
計	3	3	2																																																																																																																																						
特定行為																																																																																																																																									
創傷管理モデル	1	1	1																																																																																																																																						
術中麻酔管理モデル	2	3	4																																																																																																																																						
外科術後管理領域	0	2	6																																																																																																																																						
計	3	6	11																																																																																																																																						
認定遺伝カウンセラー	0	1	1																																																																																																																																						
合計	37	42	47																																																																																																																																						

項目 No.	R 4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																																												
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																																												
		<p>○研修実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="3">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">認定看護師</td> <td colspan="3">【長期】</td> </tr> <tr> <td colspan="3">・クリティカルケア</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【短期】 単位：人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理 者 (1st)</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理 者 (2nd)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理 者 (3rd)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療安全研修</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>学会等参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学会 ・日本看護協会研修 ・岐阜県看護協会研修 ・研修会、セミナー ・その他 看護学会等 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加延べ数</td> <td>270</td> <td>224</td> <td>402</td> </tr> </tbody> </table> <p>【コメディカル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門性の向上に向けた研修・講習会への参加を支援し、高度医療に対する知識・技術を有する職員を養成した。 <p>○専門研修への参加状況 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td>246</td> <td>298</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>臨床検査</td> <td>32</td> <td>37</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>中央検査部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目	内 容			認定看護師	【長期】			・クリティカルケア			【短期】 単位：人				2020	2021	2022	認定看護管理 者 (1st)	0	4	2	認定看護管理 者 (2nd)	0	1	3	認定看護管理 者 (3rd)	0	1	0	医療安全研修	2	3	4		2020	2021	2022	参加延べ数	270	224	402	項目／年度	2020	2021	2022	薬剤師	246	298	300	臨床検査	32	37	100	中央検査部						
項目	内 容																																																																
認定看護師	【長期】																																																																
	・クリティカルケア																																																																
	【短期】 単位：人																																																																
		2020	2021	2022																																																													
	認定看護管理 者 (1st)	0	4	2																																																													
認定看護管理 者 (2nd)	0	1	3																																																														
認定看護管理 者 (3rd)	0	1	0																																																														
医療安全研修	2	3	4																																																														
	2020	2021	2022																																																														
参加延べ数	270	224	402																																																														
項目／年度	2020	2021	2022																																																														
薬剤師	246	298	300																																																														
臨床検査	32	37	100																																																														
中央検査部																																																																	

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																										
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																																								
		<table border="1"> <tr> <td>技師</td> <td>病理部</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td></td> <td>4</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>リハビリ技師</td> <td></td> <td>42</td> <td>31</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td></td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td></td> <td>52</td> <td>112</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>398</td> <td>520</td> <td>668</td> </tr> </table>	技師	病理部	20	30	38	臨床工学技士		4	9	12	リハビリ技師		42	31	52	管理栄養士		2	3	5	放射線技師		52	112	161	合計		398	520	668															
技師	病理部	20	30	38																																											
臨床工学技士		4	9	12																																											
リハビリ技師		42	31	52																																											
管理栄養士		2	3	5																																											
放射線技師		52	112	161																																											
合計		398	520	668																																											
		<p>○主な専門研修・講習会等</p> <p>【中央放射線部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本放射線技術学会 ・全国自治体病院放射線部会研修会 ・日本放射線治療セミナー ・日本核医学学術総会 ・日本磁気共鳴医学会 ・医学物理士ミニマム講習会 ・診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会 ・業務拡大に伴う統一講習会 ・PET 研修セミナー ・医療安全管理者養成研修会 ・画像等手術支援認定講習会 <p>※主な資格取得者数 (年度末) 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アドバンス診療放射線技師</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>放射線被曝相談員</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>X線CT認定技師</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>放射線機器管理士</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>放射線管理士</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>画像等手術支援認定診療放射線技師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>第1種放射線取扱主任者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>救急撮影認定技師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			資格名／年度	2020	2021	2022	アドバンス診療放射線技師	3	3	5	放射線被曝相談員	1	1	2	X線CT認定技師	5	5	6	放射線機器管理士	3	5	10	放射線管理士	0	0	4	画像等手術支援認定診療放射線技師	0	0	2	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	0	0	1	第1種放射線取扱主任者	0	0	1	救急撮影認定技師	0	0	1			
資格名／年度	2020	2021	2022																																												
アドバンス診療放射線技師	3	3	5																																												
放射線被曝相談員	1	1	2																																												
X線CT認定技師	5	5	6																																												
放射線機器管理士	3	5	10																																												
放射線管理士	0	0	4																																												
画像等手術支援認定診療放射線技師	0	0	2																																												
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	0	0	1																																												
第1種放射線取扱主任者	0	0	1																																												
救急撮影認定技師	0	0	1																																												

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																												
		<p>※2022 年度新規資格取得者（新規採用者も含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバンス診療放射線技師 2人 ・放射線被曝相談員 1人 ・X線CT 認定技師 1人 ・放射線機器管理士 5人 ・放射線管理士 4人 ・画像等手術支援認定診療放射線技師 2人 ・検診マンモグラフィ撮景診療放射線技師 1人 ・第1種放射線取扱主任者 1人 ・救急撮景認定技師 1人 <p>【中央検査部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床衛生検査技師会 ・日本超音波医学会 ・日本超音波検査学会 ・心臓リハビリテーション学会 ・日本臨床微生物学会 ・日本臨床検査医学会 ・日本輸血・細胞治療学会 ・日本心エコー図学会 ・日本検査血液学会 ・全国自治体病院学会 ・岐阜県病院協会医学会 ・タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣指定講習会 ・日本臨床栄養代謝学会 ・病院中堅職員育成研修 <p>※主な資格取得者数（年度末） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超音波検査士（循環器）</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>超音波検査士（消化器）</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>超音波検査士（体表臓器）</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>超音波検査士（泌尿器）</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>超音波検査士（産婦人科）</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>超音波検査士（血管）</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	資格名／年度	2020	2021	2022	超音波検査士（循環器）	8	8	7	超音波検査士（消化器）	10	13	10	超音波検査士（体表臓器）	3	4	3	超音波検査士（泌尿器）	1	1	0	超音波検査士（産婦人科）	1	1	1	超音波検査士（血管）	1	1	1			
資格名／年度	2020	2021	2022																														
超音波検査士（循環器）	8	8	7																														
超音波検査士（消化器）	10	13	10																														
超音波検査士（体表臓器）	3	4	3																														
超音波検査士（泌尿器）	1	1	0																														
超音波検査士（産婦人科）	1	1	1																														
超音波検査士（血管）	1	1	1																														

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																																																							
		<table border="1"> <tr><td>血管診療技師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>認定心電図専門士</td><td>5</td><td>5</td><td>3</td></tr> <tr><td>緊急臨床検査士</td><td>10</td><td>10</td><td>12</td></tr> <tr><td>認定血液検査技師</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>認定微生物検査技師</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>心臓リハビリテーション指 導士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>2 級臨床検査士(微生物)</td><td>3</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>2 級臨床検査士(循環器)</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr> <tr><td>2 級臨床検査士(免疫血清)</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>感染制御認定微生物検査技 師 (ICMT)</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>医療安全管理者</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>臨床検査技師臨地実習指導 者</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>タスクシフト・シェアに関す る厚生労働大臣認定</td><td>0</td><td>0</td><td>30</td></tr> <tr><td>POCT 測定認定士</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> </table>	血管診療技師	1	1	1	認定心電図専門士	5	5	3	緊急臨床検査士	10	10	12	認定血液検査技師	2	2	3	認定微生物検査技師	1	2	2	心臓リハビリテーション指 導士	2	2	2	2 級臨床検査士(微生物)	3	5	6	2 級臨床検査士(循環器)	3	3	2	2 級臨床検査士(免疫血清)	0	0	1	感染制御認定微生物検査技 師 (ICMT)	1	2	2	医療安全管理者	1	2	1	臨床検査技師臨地実習指導 者	0	1	1	タスクシフト・シェアに関す る厚生労働大臣認定	0	0	30	POCT 測定認定士	0	0	1				
血管診療技師	1	1	1																																																											
認定心電図専門士	5	5	3																																																											
緊急臨床検査士	10	10	12																																																											
認定血液検査技師	2	2	3																																																											
認定微生物検査技師	1	2	2																																																											
心臓リハビリテーション指 導士	2	2	2																																																											
2 級臨床検査士(微生物)	3	5	6																																																											
2 級臨床検査士(循環器)	3	3	2																																																											
2 級臨床検査士(免疫血清)	0	0	1																																																											
感染制御認定微生物検査技 師 (ICMT)	1	2	2																																																											
医療安全管理者	1	2	1																																																											
臨床検査技師臨地実習指導 者	0	1	1																																																											
タスクシフト・シェアに関す る厚生労働大臣認定	0	0	30																																																											
POCT 測定認定士	0	0	1																																																											
		※2022 年度新規資格取得者 (新規採用者も含む) ・緊急臨床検査士 2 人 ・認定血液検査技師 1 人 ・2 級臨床検査士(微生物) 1 人 ・2 級臨床検査士(免疫血清) 1 人 ・タスクシフト・シェアに関する厚生労働大臣認定 30 人 ・POCT 測定認定士 1 人																																																												
		【病理部】 ・日本臨床衛生検査技師会 ・日本臨床細胞学会 ・認定病理検査技師講習会 ※主な資格取得者数 (年度末) 単位：人																																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定病理検査技師</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	資格名/年度	2020	2021	2022	認定病理検査技師	3	6	6																																																				
資格名/年度	2020	2021	2022																																																											
認定病理検査技師	3	6	6																																																											

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																
		<table border="1"> <tr> <td>細胞検査士</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>二級臨床検査士 (病理学)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>検体採取等の講習会修了者</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </table> <p>※2022 年度新規資格取得者 (新規採用者も含む)</p> <p>【薬剤部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本医療薬学会年会 ・日病薬 日薬東海ブロック合同学術大会 ・全日本自治体病院学会 ・日本麻酔科学会 術後疼痛管理研修 ・岐阜県病院薬剤師会研修会 ・東海薬剤師学術大会 ・近畿薬剤師合同学術大会 ・日本小児臨床薬理学会 ・日本化学療法学会 ・日本臨床救急医学会 ・日本臨床腫瘍薬学会 ・日本緩和医療薬学会 ・医療情報学連合大会・日本医療情報学会 ・日本病院会医療安全管理者養成講習会 ・日本臨床救急医学会総会・学術集会 ・感染制御専門薬剤師講習会 ・日本医薬品情報学会 ・成育医療研修会 (薬剤師コース) ・認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ ・医療薬学フォーラム/クリニカルファーマシーシンポジウム ・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会 ・がん専門薬剤師集中教育講座 <p>※主な資格取得者数 (年度末) 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染制御認定薬剤師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>抗菌化学療法認定薬剤師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日病薬 病院薬学認定薬剤師</td> <td>21</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>がん専門薬剤師</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	細胞検査士	8	8	8	二級臨床検査士 (病理学)	1	1	1	検体採取等の講習会修了者	6	6	6	資格名/年度	2020	2021	2022	感染制御認定薬剤師	2	2	2	抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	3	日病薬 病院薬学認定薬剤師	21	28	27	がん専門薬剤師	2	3	3			
細胞検査士	8	8	8																																		
二級臨床検査士 (病理学)	1	1	1																																		
検体採取等の講習会修了者	6	6	6																																		
資格名/年度	2020	2021	2022																																		
感染制御認定薬剤師	2	2	2																																		
抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	3																																		
日病薬 病院薬学認定薬剤師	21	28	27																																		
がん専門薬剤師	2	3	3																																		

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																																							
		<table border="1"> <tr><td>緩和薬物療法認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>日本糖尿病療養指導士</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><td>周術期管理チーム認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>外来がん治療認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>腎臓病薬物療法認定薬剤師</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>腎臓病療養指導士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>小児薬物療法認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>救急認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>NST 専門療法士</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>心不全療養指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> </table>	緩和薬物療法認定薬剤師	1	1	2	日本糖尿病療養指導士	5	5	5	周術期管理チーム認定薬剤師	2	2	2	外来がん治療認定薬剤師	1	1	2	腎臓病薬物療法認定薬剤師	0	0	1	腎臓病療養指導士	2	2	2	小児薬物療法認定薬剤師	2	2	2	救急認定薬剤師	1	1	1	NST 専門療法士	1	1	2	心不全療養指導士	1	1	1				
緩和薬物療法認定薬剤師	1	1	2																																											
日本糖尿病療養指導士	5	5	5																																											
周術期管理チーム認定薬剤師	2	2	2																																											
外来がん治療認定薬剤師	1	1	2																																											
腎臓病薬物療法認定薬剤師	0	0	1																																											
腎臓病療養指導士	2	2	2																																											
小児薬物療法認定薬剤師	2	2	2																																											
救急認定薬剤師	1	1	1																																											
NST 専門療法士	1	1	2																																											
心不全療養指導士	1	1	1																																											
		<p>※2022 年度新規資格取得者 (新規採用者も含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗菌化学療法認定薬剤師 1人 ・緩和薬物療法認定薬剤師 1人 ・外来がん治療認定薬剤師 1人 ・腎臓病薬物療法認定薬剤師 1人 ・NST 専門療法士 1人 																																												
		<p>【中央リハビリテーション部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ハンドセラピー学会 ・日本理学療法学会 ・日本集中治療医学会 ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会 ・日本心臓リハビリテーション学会 																																												
		<p>※主な資格取得者数 (年度末) 単位: 人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 学会合同呼吸療法認定士</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>心臓リハビリテーション指導士</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>認定理学療法士</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>心不全療養指導士</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>日本糖尿病療養指導士</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本摂食嚥下リハビリテー</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	資格名/年度	2020	2021	2022	3 学会合同呼吸療法認定士	25	29	33	心臓リハビリテーション指導士	3	6	7	認定理学療法士	4	8	8	心不全療養指導士	1	4	4	日本糖尿病療養指導士	1	1	0	日本摂食嚥下リハビリテー	1	1	1																
資格名/年度	2020	2021	2022																																											
3 学会合同呼吸療法認定士	25	29	33																																											
心臓リハビリテーション指導士	3	6	7																																											
認定理学療法士	4	8	8																																											
心不全療養指導士	1	4	4																																											
日本糖尿病療養指導士	1	1	0																																											
日本摂食嚥下リハビリテー	1	1	1																																											

項目 No.	R 4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																								
		<table border="1"> <tr> <td>シオン学会認定士</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>LSVT®資格認定</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>公認心理師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>※2022年度新規資格取得者（新規採用者も含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学会合同呼吸療法認定士 4人 ・心臓リハビリテーション指導士 1人 ・LSVT®資格認定 1人 ・公認心理師 1人 <p>【栄養部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国自治体病院学会 ・岐阜県病院協会医学会 ・日本心臓リハビリ学会学術集会 ・日本臨床栄養代謝学会 ・日本病態栄養学会年次学術集会 ・がん専門管理栄養士セミナー <p>※主な資格取得者数（年度末） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NST 専門療法士</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>糖尿病療養指導士</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>病態栄養専門管理栄養士</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>がん病態栄養専門管理栄養士</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>心臓リハビリテーション指導士</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>アレルギー疾患療養指導士</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2022年度新規資格取得者（新規採用者も含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NST 専門療法士 1人 <p>【臨床工学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床工学技士会 ・岐阜県臨床工学技士会セミナー ・岐阜県臨床工学技士会学術大会 ・医療機器安全基礎講習会（ME 技術講習会） ・透析液安全管理責任者セミナー 	シオン学会認定士				LSVT®資格認定	1	1	2	公認心理師	0	0	1	資格名／年度	2020	2021	2022	NST 専門療法士	3	4	5	糖尿病療養指導士	5	5	5	病態栄養専門管理栄養士	4	4	4	がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	2	心臓リハビリテーション指導士	1	1	1	アレルギー疾患療養指導士	0	2	2			
シオン学会認定士																																													
LSVT®資格認定	1	1	2																																										
公認心理師	0	0	1																																										
資格名／年度	2020	2021	2022																																										
NST 専門療法士	3	4	5																																										
糖尿病療養指導士	5	5	5																																										
病態栄養専門管理栄養士	4	4	4																																										
がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	2																																										
心臓リハビリテーション指導士	1	1	1																																										
アレルギー疾患療養指導士	0	2	2																																										

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																																								
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本人工臓器学会教育セミナー <p>※主な資格取得者数 (年度末) 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体外循環技術認定士</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>透析技術認定士</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>呼吸療法認定士</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>不整脈治療関連専門臨床工学 技士</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認定集中治療関連臨床工学技 士</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>植込み型心臓デバイス認定士</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>心血管インターベンション技 師</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>第一種ME 技術者</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>医療機器情報コミュニケーター (MDIC)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>認定ホスピタルエンジニア</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ICLS 認定インストラクター</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>AHA-BLS プロバイダーコース</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>AHA-ACLS プロバイダーコース</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2022 年度新規資格取得者 (新規採用者も含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体外循環技術認定士 1人 ・透析技術認定士 1人 ・認定集中治療関連臨床工学技士 1人 ・心血管インターベンション技師 1人 <p>4 高度先端医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度先端医療など新しい医療技術を実施するため、新たに下記の施設認定を取得した。 <p><施設認定名称></p> <ul style="list-style-type: none"> 遺伝性乳癌卵巣癌総合診療施設 (協力施設) ペインクリニック専門医指定研修施設 	資格名/年度	2020	2021	2022	体外循環技術認定士	5	5	5	透析技術認定士	4	4	5	呼吸療法認定士	4	6	6	不整脈治療関連専門臨床工学 技士	0	1	1	認定集中治療関連臨床工学技 士	0	2	3	植込み型心臓デバイス認定士	0	1	1	心血管インターベンション技 師	0	5	6	第一種ME 技術者	0	1	1	医療機器情報コミュニケーター (MDIC)	1	2	2	認定ホスピタルエンジニア	1	1	1	ICLS 認定インストラクター	1	1	1	AHA-BLS プロバイダーコース	4	4	4	AHA-ACLS プロバイダーコース	4	4	4			
資格名/年度	2020	2021	2022																																																										
体外循環技術認定士	5	5	5																																																										
透析技術認定士	4	4	5																																																										
呼吸療法認定士	4	6	6																																																										
不整脈治療関連専門臨床工学 技士	0	1	1																																																										
認定集中治療関連臨床工学技 士	0	2	3																																																										
植込み型心臓デバイス認定士	0	1	1																																																										
心血管インターベンション技 師	0	5	6																																																										
第一種ME 技術者	0	1	1																																																										
医療機器情報コミュニケーター (MDIC)	1	2	2																																																										
認定ホスピタルエンジニア	1	1	1																																																										
ICLS 認定インストラクター	1	1	1																																																										
AHA-BLS プロバイダーコース	4	4	4																																																										
AHA-ACLS プロバイダーコース	4	4	4																																																										

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																								
		<p>日本胃癌学会認定施設 (B) 日本心エコー学会認定心エコー専門医制度研修施設 日本脚藏学会認定指導施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科系学会社会保険委員会連合が指定した高難度手術 (D、E 難度) や遺伝子検査を積極的に実施し、高度先端医療を推進した。 <p>○高度先端医療の実施状況 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D, E 難度手術実施数</td> <td>4, 850</td> <td>5, 263</td> <td>5, 149</td> </tr> <tr> <td>遺伝子検査実施数</td> <td>653</td> <td>767</td> <td>866</td> </tr> </tbody> </table> <p>※遺伝子検査：D006-2～20、D006-22～28 に該当する検査</p> <p>5 専門性を発揮したチーム医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することにより、治療やケアに当たることができた。 <p><主な医療チーム> ICT、緩和ケアチーム、呼吸器ケアチーム、褥瘡ケアチーム、 口腔ケアチーム、NST、摂食嚥下チーム、認知症ケアチーム、AST、早期離床リハビリテーションチーム、心不全チーム、排尿自立ケアチーム</p> <p>○各種チーム加算算定数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緩和ケア診療加算</td> <td>1, 221</td> <td>1, 148</td> <td>1, 406</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム加算</td> <td>16</td> <td>26</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>褥瘡/ワド患者ケア加算</td> <td>2, 101</td> <td>2, 545</td> <td>2, 442</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム加算</td> <td>951</td> <td>988</td> <td>892</td> </tr> <tr> <td>認知症ケア加算</td> <td>1, 176</td> <td>1, 331</td> <td>1, 292</td> </tr> <tr> <td>早期離床リハビリテーション加算</td> <td>999</td> <td>1, 313</td> <td>1, 347</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 ICT (情報通信技術) やAI (人工知能) 等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度及び2018年度に整備した遠隔画像コンサルテーションシステムを積極的に活用し、準夜帯及び深夜帯の院内専門医不在時における画像コンサルテーションを、外部の放射線専門医に依頼することにより、安全か 	項目/年度	2020	2021	2022	D, E 難度手術実施数	4, 850	5, 263	5, 149	遺伝子検査実施数	653	767	866	項目/年度	2020	2021	2022	緩和ケア診療加算	1, 221	1, 148	1, 406	呼吸ケアチーム加算	16	26	7	褥瘡/ワド患者ケア加算	2, 101	2, 545	2, 442	栄養サポートチーム加算	951	988	892	認知症ケア加算	1, 176	1, 331	1, 292	早期離床リハビリテーション加算	999	1, 313	1, 347			
項目/年度	2020	2021	2022																																										
D, E 難度手術実施数	4, 850	5, 263	5, 149																																										
遺伝子検査実施数	653	767	866																																										
項目/年度	2020	2021	2022																																										
緩和ケア診療加算	1, 221	1, 148	1, 406																																										
呼吸ケアチーム加算	16	26	7																																										
褥瘡/ワド患者ケア加算	2, 101	2, 545	2, 442																																										
栄養サポートチーム加算	951	988	892																																										
認知症ケア加算	1, 176	1, 331	1, 292																																										
早期離床リハビリテーション加算	999	1, 313	1, 347																																										

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																												
		<p>つ質の高い医療を提供した。2022年度は3,711件のCT・MRI検査画像のコンサルテーション依頼を行った。</p> <p>○救急の外部コンサルテーション依頼数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>3,091</td> <td>3,271</td> <td>3,321</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>412</td> <td>372</td> <td>390</td> </tr> </tbody> </table> <p>・電子カルテシステム等の更新に合わせ、放射線画像AI診断システムを導入した。</p> <p>7 入退院支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象診療科については、2022年6月から脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科の運用を開始し、9診療科から12診療科まで拡大した。 ・入院支援から退院支援への情報共有を図り、患者に継続した支援が実施できるように業務改善した。 ・退院支援における患者支援の方法も検討し、安心して退院できるよう業務改善した。予定入院する患者の入院当日の面談、入院支援室看護師からの事前の情報共有、病棟カンファレンスへの入院支援室・退院支援室・外来看護師の参加、さらに緊急入院となった患者への面談を確実に実施するようにした。 <p>○入退院支援業務の実施状況 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院時支援介入数</td> <td>879</td> <td>2,706</td> <td>3,472</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算算定数</td> <td>2,208</td> <td>2,897</td> <td>3,906</td> </tr> <tr> <td>入院時支援加算算定数</td> <td>162</td> <td>302</td> <td>1,262</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	2020	2021	2022	CT	3,091	3,271	3,321	MRI	412	372	390	項目／年度	2020	2021	2022	入院時支援介入数	879	2,706	3,472	入退院支援加算算定数	2,208	2,897	3,906	入院時支援加算算定数	162	302	1,262			
項目／年度	2020	2021	2022																														
CT	3,091	3,271	3,321																														
MRI	412	372	390																														
項目／年度	2020	2021	2022																														
入院時支援介入数	879	2,706	3,472																														
入退院支援加算算定数	2,208	2,897	3,906																														
入院時支援加算算定数	162	302	1,262																														
02	1 待ち時間の改善等 当院における急性期治療から脱した患者に対する他の医療機関への逆紹介の推進や予約枠の均等配分等により、外来機能のスリム化及び平準化を図るとともに、	1 待ち時間の改善等 <外来部門> ・検査・診察・治療を患者に合わせたきめ細かい対応を行うことにより、院内滞在時間の縮減を図る取組を継続した。	IV	III	<ul style="list-style-type: none"> ・患者満足度調査による平均待ち時間が漸増しており、実効性のある対策が望まれる。 ・待ち時間の短縮のためにも、より 																												

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																							
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																						
	<p>医師事務作業補助者等スタッフの適正な配置により、診療及び検査等の業務の効率化と迅速化を図ることで診察待ち時間の短縮に努める。</p> <p>また、業務の見直しや医療機器の更新等による検査(採血、心電図、超音波等)の効率的な実施やキャッシュレス決済等による支払手法の拡大等により、検査や会計待ち時間の改善を図る。</p> <p>さらに、待ち時間の実態調査(患者満足度調査「年1回」及びシステムによる調査「年4回」)や系統的な確認を継続的に実施し、患者からの意見・要望に対して、各部署において改善計画を立案し、積極的に取り組むことで平均待ち時間の短縮を図る。</p> <p>4 外国人に配慮した受診支援</p> <p>外国人の対応については、常勤の医療通訳の配置を継続するほか、院内の外国語表示の充実、タブレット端末や電話による医療通訳の活用、医療に関する各種書類等の外国語対応を行い、外国人患者が安心して受診できる体制を整備する。</p> <p>5 患者中心の医療の提供及び患者満足度の向上</p> <p>当センターが掲げる「患者さんの権利と責務」(「平等に安全で良質な医療を受ける権利」、「十分な説明と助言のもとに患者自身の医療を決定する権利」、「セカンドオピニオンを受ける権利」、「個人のプライバシーが守られる権利」、「医療従事者と協力して医療に参加する責務」)を推進し、県民に信頼され、患者本位の安全で良質な全人的医療を提供する。また、これらを遵守することで、患者満足度の向上(外来:80%以上、入院:90%以上)を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検査が必要な患者に対しては検査を先に実施 ・看護師による指導を必要とする患者に対しての指導・説明を待ち時間に実施 ・入院患者に対する説明の一元化 ・病診連携による紹介患者については、診察予約時間30分以内の診察を徹底 <p>・待ち時間の有効活用に向けた取組を継続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間に待合場所を離れる患者に対して、希望により携帯電話による呼び出しを実施 ・診療科に即したパンフレットや図書を配置 <p>・医療機関からの外来予約について、インターネットを活用した受付を2023年1月より全診療科に拡大した。(従前は小児科のみ)</p> <p>・患者満足度調査にあわせて、待ち時間調査を実施するとともに、システムによる待ち時間の把握を年4回実施し、状況の把握に努めた。調査の結果、患者満足度調査では待ち時間がやや長くなっているが、システムによる調査は待ち時間は減る傾向となった。2023年1月に更新された電子カルテに慣れていなかった点はあるものの、新しい案内表示などが待ち時間の減少に寄与したと思われる。</p> <p>○患者満足度調査による平均待ち時間 単位:分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32</td> <td>36</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予約時刻と実際の診療開始時刻までの時間</p> <p>○システムによる待ち時間別患者構成率 単位:%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月/待ち時間</th> <th>~30分</th> <th>30~2時間</th> <th>2時間~</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2021.1</td> <td>51.4</td> <td>43.5</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>2022.1</td> <td>43.9</td> <td>46.9</td> <td>9.2</td> </tr> <tr> <td>2023.1</td> <td>46.6</td> <td>46.2</td> <td>7.2</td> </tr> </tbody> </table>	2020	2021	2022	32	36	38	年月/待ち時間	~30分	30~2時間	2時間~	2021.1	51.4	43.5	5.2	2022.1	43.9	46.9	9.2	2023.1	46.6	46.2	7.2			病診連携・近隣医療機関との役割分担を進めていただきたい。
2020	2021	2022																									
32	36	38																									
年月/待ち時間	~30分	30~2時間	2時間~																								
2021.1	51.4	43.5	5.2																								
2022.1	43.9	46.9	9.2																								
2023.1	46.6	46.2	7.2																								

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																								
		<p><中央検査部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間の短縮を図るため、採血開始時間を8時とする取組を継続するとともに、第2採血室にて全体の3割の採血を実施した。 2020：6ブース→2021：9ブース→2022：9ブース ・超音波検査（生理検査部門）では、COVID-19の影響の継続により対象患者数が減少したが、退職に伴い技師数も減少したため、待ち時間が増加した。また、電子カルテ更新によりレポートシステムが変更になったことで記入時間がかかったことが待ち時間増加の要因にもなっている。 <p>○超音波検査待ち時間の推移（カッコ内の数字は技師数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度／項目</th> <th>総数</th> <th>60分未満</th> <th>～90分</th> <th>90分超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2020 (13)</td> <td>25,430件</td> <td>93.3%</td> <td>5.7%</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>2021 (12)</td> <td>24,906件</td> <td>94.7%</td> <td>4.6%</td> <td>0.7%</td> </tr> <tr> <td>2022 (10)</td> <td>24,428件</td> <td>85.4%</td> <td>12.0%</td> <td>2.6%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・外来超音波も減少したが、心臓超音波が依然として多く、昨年と同様に循環器の医師と相談し、超音波検査室外で実施する特殊検査を午後集約し、検査室内の午前中の人員を確保することで、対応した。 <p>○超音波検査件数（外来分） 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総数</td> <td>18,860</td> <td>19,828</td> <td>18,250</td> </tr> <tr> <td>うち心臓超音波</td> <td>5,477</td> <td>8,929</td> <td>8,220</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 外国人に配慮した受診支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19の影響により派遣が中断されていた通訳ボランティアは2022年4月から再開された。外国人の受診を支援するため、ボランティア及び職員による対応を引き続き行った。 <p>○医療通訳病院職員対応件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度／項目	総数	60分未満	～90分	90分超	2020 (13)	25,430件	93.3%	5.7%	1.0%	2021 (12)	24,906件	94.7%	4.6%	0.7%	2022 (10)	24,428件	85.4%	12.0%	2.6%	項目／年度	2020	2021	2022	総数	18,860	19,828	18,250	うち心臓超音波	5,477	8,929	8,220	項目／年度	2020	2021	2022							
年度／項目	総数	60分未満	～90分	90分超																																									
2020 (13)	25,430件	93.3%	5.7%	1.0%																																									
2021 (12)	24,906件	94.7%	4.6%	0.7%																																									
2022 (10)	24,428件	85.4%	12.0%	2.6%																																									
項目／年度	2020	2021	2022																																										
総数	18,860	19,828	18,250																																										
うち心臓超音波	5,477	8,929	8,220																																										
項目／年度	2020	2021	2022																																										

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証			
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見	
		中国語	294	259	167			
		英語	399	507	533			
		ポルトガル語	241	214	181			
		スペイン語	102	51	59			
		その他	62	53	44			
		合計	1,098	1,084	984			
		○医療通訳ボランティア派遣依頼件数 単位：件						
		項目/年度	2020	2021	2022			
		ポルトガル語	2	0	36			
		中国語	0	0	0			
		タガログ語	0	0	11			
		合計	2	0	47			
		・電話による通訳サービスを継続し、通訳担当職員不在時（夜間休日）などにも対応できるよう努めた。						
		○電話通訳サービス利用件数 単位：件						
		項目/年度	2020	2021	2022			
		ポルトガル語	9	11	3			
		中国語	0	0	0			
		タガログ語	1	5	2			
		ベトナム語	6	2	7			
		英語	1	0	0			
		スペイン語	0	0	0			
		タイ語	0	20	9			
		ミャンマー語	0	0	13			
		インドネシア語	0	0	2			
		合計	17	38	36			

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見												
		<p>・医療に関する各種書類については、説明書等の文書や患者の診断書の翻訳版を提供することで、外国人患者が安心して受診できる体制の構築に努めた。今年度は、初診時に使用する問診票について英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、タガログ語に翻訳したものを作成した。</p> <p>5 患者中心の医療の提供及び患者満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利や個人情報保護に関する方針をロビーやホームページに継続して掲示している。また、新たに「こども患者さんの権利」を創設した。 ・患者満足度調査の結果、5段階評価で「満足」と「やや満足」の割合は、外来は83.2%、入院は91.2%となり、目標を達成できた。 <p>○患者満足度調査満足割合 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>85.8</td> <td>81.9</td> <td>83.2</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>91.5</td> <td>93.9</td> <td>91.2</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	外来	85.8	81.9	83.2	入院	91.5	93.9	91.2			
項目/年度	2020	2021	2022														
外来	85.8	81.9	83.2														
入院	91.5	93.9	91.2														
03	<p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p> <p>患者動向、医療需要の変化及び医療の進歩に対応するため、診療科や専門外来の新設等、患者ニーズに対応したきめ細やかな診療体制の充実を図る。</p>	<p>1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者動向や医療需要の変化に対応した組織改編等に積極的に取り組んだことにより、患者に対してよりきめ細やかなサービスを提供することができた。新たな診療科の設置や需要に対応するため医療支援部門の新設・再編等、将来を見据えた診療体制の充実を図った。 <p>○組織・診療科等の新設等</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td> 【事務局等】 <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬対策室の設置 ・入院会計担当の設置 【診療部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・口腔腫瘍科の設置 ・脳腫瘍治療科の設置 【医療支援部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査部の設置 ・臨床工学部の再編 ・医師事務支援部への改称 </td> </tr> </tbody> </table>	【事務局等】 <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬対策室の設置 ・入院会計担当の設置 【診療部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・口腔腫瘍科の設置 ・脳腫瘍治療科の設置 【医療支援部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査部の設置 ・臨床工学部の再編 ・医師事務支援部への改称 	IV													
【事務局等】 <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬対策室の設置 ・入院会計担当の設置 【診療部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・口腔腫瘍科の設置 ・脳腫瘍治療科の設置 【医療支援部門】 <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査部の設置 ・臨床工学部の再編 ・医師事務支援部への改称 																	

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																																
04	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 当センターと地域医療機関がそれぞれの特性を生かしながら機能分担し、患者が病状に即した医療を受診できるよう地域全体で協力し、ケアしていくため、「地域医療支援病院」として、紹介率の維持・向上（75%以上）及び逆紹介率の維持・向上（95%以上）を目指すことで、地域の医療機関との連携及び協力体制のさらなる充実を図る。</p> <p>また、地域の各医療機関を定期的に訪問することにより、開放型病床登録医療機関及び登録医師数のさらなる拡大や紹介患者数の増加を目指し、「病病連携」や「病診連携」をさらに推進する。</p> <p>2 地域連携パスの整備普及 現在運用している地域連携パスの有用性を検証し、運用実績の向上を目指す。既に運用中の急性心筋梗塞、脳卒中、大腿骨頸部骨折、ウイルス性肝炎等の連携パスについては、更なる改善・充実を図るとともに、平成23年から運用が開始された5大がん及び前立腺がんを加えた六つのがん（胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がん、乳がん、前立腺がん）の既存の地域連携パスについても、岐阜大学医学部附属病院等関係医療機関と共同で取り組む。また、岐阜地域医師会連携パス機構による新たな連携パス（CR-GNet）の院内での普及及び活用に努め、運用率を高める。</p>	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率・逆紹介率について、COVID-19の影響下、患者の移動制限が継続される中で、年度計画（紹介率75%以上、逆紹介率95%以上）の目標に対して逆紹介率は達成できたが、紹介率は達成できなかった。 <p>○紹介率・逆紹介率 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>70.0</td> <td>71.9</td> <td>67.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>97.6</td> <td>110.5</td> <td>107.9</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・開放型病床登録医療機関及び登録医師数の拡大を目指し、新規に開設した医療機関に対する働きかけを行った。併せて廃止となった医療機関の登録を整理した。結果、医療機関数は減少したが、医師の登録数は増加した。 <p>○開放型病床登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関数</td> <td>416</td> <td>433</td> <td>406</td> </tr> <tr> <td>医師数</td> <td>531</td> <td>550</td> <td>570</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 地域連携パスの整備普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスに関する院内への周知、定期的なモニタリングを行うとともに、院内外の相談窓口として連絡調整を行った。 ・地域医師会や岐阜大学医学部附属病院による地域連携パスに係る学習会は、今年度もCOVID-19の影響で開催されなかった。 ・地域連携パスの院内での普及を進めており、現在17種類の運用を行っている。2021年度に減少した脳卒中の適用数は回復したが、大腿骨頸部骨折の適用数が減少し、運用実績数は前年度をやや下回った。 <p>○地域連携パスの運用実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>連携パス名</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性心筋梗塞</td> <td>62</td> <td>69</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>132</td> <td>124</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>313</td> <td>255</td> <td>318</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>30</td> <td>45</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	紹介率	70.0	71.9	67.2	逆紹介率	97.6	110.5	107.9	項目/年度	2020	2021	2022	医療機関数	416	433	406	医師数	531	550	570	連携パス名	2020	2021	2022	急性心筋梗塞	62	69	44	大腿骨頸部骨折	132	124	82	脳卒中	313	255	318	胃がん	30	45	30	肝がん	1	2	0	Ⅲ		<ul style="list-style-type: none"> ・県総の役割として高度な先進的医療を行うことが挙げられており、一般の初診を制限することなく行うことは役割分担に結びつかないため、患者教育をよりいっそう行っていたきたい。 ・地域連携パスの利用が少ないのは、教育的基幹病院として、改善していただきたい。
項目/年度	2020	2021	2022																																																		
紹介率	70.0	71.9	67.2																																																		
逆紹介率	97.6	110.5	107.9																																																		
項目/年度	2020	2021	2022																																																		
医療機関数	416	433	406																																																		
医師数	531	550	570																																																		
連携パス名	2020	2021	2022																																																		
急性心筋梗塞	62	69	44																																																		
大腿骨頸部骨折	132	124	82																																																		
脳卒中	313	255	318																																																		
胃がん	30	45	30																																																		
肝がん	1	2	0																																																		

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																																																		
		<table border="1"> <tr><td>大腸がん</td><td>72</td><td>70</td><td>43</td></tr> <tr><td>乳がん</td><td>82</td><td>40</td><td>48</td></tr> <tr><td>肝炎</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>肺がん</td><td>16</td><td>9</td><td>22</td></tr> <tr><td>糖尿病</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>COPD</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td></tr> <tr><td>CKD</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>PSA</td><td>21</td><td>14</td><td>22</td></tr> <tr><td>前立腺がん</td><td>33</td><td>29</td><td>31</td></tr> <tr><td>尿路上皮がん</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>サポートパス</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>心不全</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>合計</td><td>766</td><td>658</td><td>644</td></tr> </table>	大腸がん	72	70	43	乳がん	82	40	48	肝炎	1	0	0	肺がん	16	9	22	糖尿病	1	1	2	COPD	1	0	2	CKD	0	0	0	PSA	21	14	22	前立腺がん	33	29	31	尿路上皮がん	1	0	0	サポートパス	0	0	0	心不全	0	0	0	合計	766	658	644			
大腸がん	72	70	43																																																						
乳がん	82	40	48																																																						
肝炎	1	0	0																																																						
肺がん	16	9	22																																																						
糖尿病	1	1	2																																																						
COPD	1	0	2																																																						
CKD	0	0	0																																																						
PSA	21	14	22																																																						
前立腺がん	33	29	31																																																						
尿路上皮がん	1	0	0																																																						
サポートパス	0	0	0																																																						
心不全	0	0	0																																																						
合計	766	658	644																																																						
05	<p>1 救急医療 岐阜圏域の救命救急センターとして、救命救急センター運営マニュアルに基づき、循環器系疾患、外傷をはじめ、指肢切断、急性薬物中毒などの特殊な症例を含め全ての救急疾患（精神科疾患を除く）に対し全診療科が対応し、二次・三次救急患者を24時間体制で受け入れ、安心して受診できる体制を確保し、更なる救命救急センター機能の強化と充実を図り、「断らない医療」を目指す。</p> <p>3 周産期医療 総合周産期部（産科・胎児診療科）と新生児医療部（新生児内科）を基幹として、出生前診断・胎児治療を含め各科の枠を超えた母とこどもの総合的な高度医療を提供する。 各部門では、重症妊産婦や超早産児をはじめとして他施設では対応困難な症例に対して、専用のドクターカー（すこやか号）やドクターヘリ等による母体搬送や新生児搬送を24時間体制で受け</p>	<p>1 救急医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜圏域の救命救急センターとして、精神科疾患を除くすべての救命救急疾患に対し全診療科が対応、当センターでの救急医療の完結を目指し、二次・三次救急患者を24時間体制で受け入れた。 ・受入体制について、外来については、内科系、外科系、小児科系の医師による24時間体制としたほか、入院については、主治医制で対応した。一方、臨床検査や放射線検査については、常時、検査可能とし、救急関係診療科の24時間呼び出しにより、緊急手術に常時対応できる体制を確保した。また、麻酔科医、産婦人科医等専門診療科医については、オンコール体制での対応を行った。 <p>○病床利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延入院患者数（単位：人）</td> <td>6,360</td> <td>7,708</td> <td>8,304</td> </tr> <tr> <td>病床利用率（単位：%）</td> <td>58.1</td> <td>70.4</td> <td>75.8</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	延入院患者数（単位：人）	6,360	7,708	8,304	病床利用率（単位：%）	58.1	70.4	75.8	IV	<p>県総には岐阜圏域のみならず県全体の医療水準の向上に寄与いただきたい。専攻医数が減少傾向にあり、独自プログラムを作成する等により、専攻医を増やしていただきたい。</p>																																									
項目/年度	2020	2021	2022																																																						
延入院患者数（単位：人）	6,360	7,708	8,304																																																						
病床利用率（単位：%）	58.1	70.4	75.8																																																						

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																																																
	<p>入れ、後遺症なき発育を目指す。 県下全域に影響が危惧される事案が発生した場合には、県及び岐阜県周産期医療協議会等へ報告するとともに連携し協力体制を整える。</p> <p>4 がん医療 地域がん診療連携拠点病院として各部署の機能を一層充実させ、院内がん登録数、がん相談件数等を増加させる。地域の患者と医療機関からの信頼を得るべく、あらゆる病期のがん患者に対して、診療ガイドラインに基づいた良質な医療を提供する。 若年世代のがん患者が増加していることから、就学や就労、生殖機能の温存等のニーズに対応できるように近隣の病院や専門施設との連携を強化する。 最新技術を用いて、がんの早期診断、早期治療に努めるとともに、進行がん患者に対しては、集学的治療により、さらなる治療成績の向上を図る。ロボット手術の保険収載術式の拡大に伴い、各診療科においても、先進的低侵襲治療を積極的に展開させる。 ゲノム医療については、がんゲノム医療中核拠点病院である名古屋大学医学部附属病院と連携し、遺伝子変異に基づいた個別化治療につなげるためのがん遺伝子パネル検査を推進する。 5 大がん地域連携パスを活用して、一層緊密な病診連携を推進する。治療方針に苦慮する症例については、キャンサーボードに提示し、全体的な検討の上、当センターとしての治療方針を決定する。 化学療法部門では、快適な環境下で多職種スタッフが関わり、安全で質の高い化学療法ができるように運営する。 緩和ケア部門では、がん患者の外来・入院時の</p>	<p>○救急車受入状況 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車受入件数</td> <td>4,705</td> <td>5,327</td> <td>6,014</td> </tr> <tr> <td>一日平均件数</td> <td>12.9</td> <td>14.6</td> <td>16.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>○救急外来患者（診療科別：上位のみ） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児科</td> <td>2,831</td> <td>3,945</td> <td>4,672</td> </tr> <tr> <td>消化器内科</td> <td>2,237</td> <td>2,449</td> <td>2,593</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>2,096</td> <td>2,051</td> <td>2,072</td> </tr> <tr> <td>総合診療科</td> <td>2,827</td> <td>2,975</td> <td>3,121</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>1,236</td> <td>1,215</td> <td>1,160</td> </tr> <tr> <td>循環器内科</td> <td>1,482</td> <td>1,764</td> <td>1,765</td> </tr> <tr> <td>脳神経内科</td> <td>1,107</td> <td>1,185</td> <td>1,436</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5,583</td> <td>5,758</td> <td>6,236</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19,399</td> <td>21,342</td> <td>23,055</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 周産期医療 ＜総合周産期センターの運営＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児センター機能とハイリスクの妊産婦等の医療機能などの統合を継続し、産婦人科と小児科の枠を超えた高度医療を提供した。特に、合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、産褥異常、胎児異常等の患者の診療を行った。 ・当センターを受診されている妊婦だけではなく、緊急母体搬送で送られてくるハイリスク妊婦を24時間体制で受け入れた。 <p>○母体搬送の受入件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母体搬送</td> <td>75 (2)</td> <td>143 (1)</td> <td>147 (0)</td> </tr> <tr> <td>救急搬送</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ () はヘリコプター搬送《内数》</p> <p>○産科合併症 単位：件</p>	項目/年度	2020	2021	2022	救急車受入件数	4,705	5,327	6,014	一日平均件数	12.9	14.6	16.5	項目/年度	2020	2021	2022	小児科	2,831	3,945	4,672	消化器内科	2,237	2,449	2,593	整形外科	2,096	2,051	2,072	総合診療科	2,827	2,975	3,121	外科	1,236	1,215	1,160	循環器内科	1,482	1,764	1,765	脳神経内科	1,107	1,185	1,436	その他	5,583	5,758	6,236	合計	19,399	21,342	23,055	項目/年度	2020	2021	2022	母体搬送	75 (2)	143 (1)	147 (0)	救急搬送	6	10	3			
項目/年度	2020	2021	2022																																																																		
救急車受入件数	4,705	5,327	6,014																																																																		
一日平均件数	12.9	14.6	16.5																																																																		
項目/年度	2020	2021	2022																																																																		
小児科	2,831	3,945	4,672																																																																		
消化器内科	2,237	2,449	2,593																																																																		
整形外科	2,096	2,051	2,072																																																																		
総合診療科	2,827	2,975	3,121																																																																		
外科	1,236	1,215	1,160																																																																		
循環器内科	1,482	1,764	1,765																																																																		
脳神経内科	1,107	1,185	1,436																																																																		
その他	5,583	5,758	6,236																																																																		
合計	19,399	21,342	23,055																																																																		
項目/年度	2020	2021	2022																																																																		
母体搬送	75 (2)	143 (1)	147 (0)																																																																		
救急搬送	6	10	3																																																																		

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																															
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																															
<p>スクリーニングを推進し、緩和ケアチームが積極的に関われる体制を強化する。また、緩和ケア外来、がん看護外来及び緩和ケア病床の充実を図るとともに、緩和ケアの患者がいつでも緊急入院できる体制を整える。</p> <p>地域連携カンファレンスや診療所訪問などを通じて、顔の見える病診連携を進め、在宅緩和ケアなど患者の希望に沿った切れ目のない緩和ケアを展開する。</p> <p>がん相談支援部門では、患者のニーズを踏まえたがん患者及びその家族の在宅医療支援や就労支援に力を入れ、利用者数の増加を図っていく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>早産</td> <td>117</td> <td>106</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>HDP (妊娠高血圧症候群)</td> <td>36</td> <td>34</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>常位胎盤・早期剥離</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>胎盤位置異常</td> <td>53</td> <td>50</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>羊水の異常</td> <td>80</td> <td>84</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>胎児異常</td> <td>77</td> <td>115</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>FGR (胎児発育不全)</td> <td>43</td> <td>53</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	早産	117	106	95	HDP (妊娠高血圧症候群)	36	34	31	常位胎盤・早期剥離	5	12	6	胎盤位置異常	53	50	28	羊水の異常	80	84	52	胎児異常	77	115	101	FGR (胎児発育不全)	43	53	51																			
	項目/年度	2020	2021	2022																																																
	早産	117	106	95																																																
	HDP (妊娠高血圧症候群)	36	34	31																																																
	常位胎盤・早期剥離	5	12	6																																																
	胎盤位置異常	53	50	28																																																
	羊水の異常	80	84	52																																																
	胎児異常	77	115	101																																																
	FGR (胎児発育不全)	43	53	51																																																
	<p>○合併症妊娠 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>婦人科系疾患</td> <td>117</td> <td>132</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>心・血管疾患</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>血液疾患</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>腎疾患</td> <td>9</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>糖尿病・妊娠性糖尿病</td> <td>39</td> <td>43</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>甲状腺疾患</td> <td>35</td> <td>38</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>自己免疫・膠原病</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>呼吸器疾患</td> <td>8</td> <td>13</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>消化器疾患</td> <td>3</td> <td>22</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>精神・神経系</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>運動機能系</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	婦人科系疾患	117	132	157	心・血管疾患	9	8	10	血液疾患	1	8	9	腎疾患	9	14	13	糖尿病・妊娠性糖尿病	39	43	36	甲状腺疾患	35	38	59	自己免疫・膠原病	9	5	3	呼吸器疾患	8	13	19	消化器疾患	3	22	9	精神・神経系	11	14	6	運動機能系	0	0	0			
	項目/年度	2020	2021	2022																																																
	婦人科系疾患	117	132	157																																																
	心・血管疾患	9	8	10																																																
	血液疾患	1	8	9																																																
	腎疾患	9	14	13																																																
	糖尿病・妊娠性糖尿病	39	43	36																																																
	甲状腺疾患	35	38	59																																																
	自己免疫・膠原病	9	5	3																																																
	呼吸器疾患	8	13	19																																																
	消化器疾患	3	22	9																																																
	精神・神経系	11	14	6																																																
運動機能系	0	0	0																																																	
<p>○ハイリスク妊婦・分娩等 (対象者) 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合周産期加算</td> <td>307</td> <td>335</td> <td>291</td> </tr> <tr> <td>ハイリスク妊娠</td> <td>209</td> <td>254</td> <td>264</td> </tr> <tr> <td>ハイリスク分娩</td> <td>91</td> <td>128</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>救急加算</td> <td>156</td> <td>149</td> <td>148</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	総合周産期加算	307	335	291	ハイリスク妊娠	209	254	264	ハイリスク分娩	91	128	109	救急加算	156	149	148																																
項目/年度	2020	2021	2022																																																	
総合周産期加算	307	335	291																																																	
ハイリスク妊娠	209	254	264																																																	
ハイリスク分娩	91	128	109																																																	
救急加算	156	149	148																																																	
<p>○保健指導実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>項目/年度</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	項目/年度	2020	2021	2022																																												
項目/年度	2020	2021	2022																																																	
項目/年度	2020	2021	2022																																																	

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																																																		
		<table border="1"> <tr> <td>保健指導</td> <td>1,224</td> <td>1,177</td> <td>1,131</td> </tr> <tr> <td>母乳相談</td> <td>114</td> <td>113</td> <td>96</td> </tr> </table> <p><新生児医療センターの運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・超低出生体重24名のうち10名(42%)は極めて未熟性が強い22-23週の出生であった(2021年度は6名)。 ・軽症の院外出生児は他院へ三角搬送を行い、当院でしか管理できない中等症・重症例を受け入れた結果、院外出生児の受け入れはさらに減少した。 ・当院では緊急対応必要な中等症・重症例を中心に新生児手術を行っており、軽症例は岐阜大学病院へトリアージを行った結果、23件と適切な小児外科症例手術数に落ち着いてきている。 <p>○出生、母体搬送件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内出生</td> <td>207</td> <td>229</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>院外出生</td> <td>84</td> <td>63</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>母体搬送経由</td> <td>36</td> <td>30</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>超低出生体重児</td> <td>31</td> <td>22</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>極低出生体重児</td> <td>57</td> <td>48</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>○新生児手術状況 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児心臓外科</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>小児脳神経外科</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>小児外科</td> <td>25</td> <td>47</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>耳鼻科(気管切開)</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 がん医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん診療連携拠点病院として地域の医療機関と連携、あらゆる病期のがん患者に対して、良質な医療を提供した結果、COVID-19の影響下にあっても入院患者および外来患者は増加した。 	保健指導	1,224	1,177	1,131	母乳相談	114	113	96	項目/年度	2020	2021	2022	院内出生	207	229	198	院外出生	84	63	39	母体搬送経由	36	30	31	超低出生体重児	31	22	24	極低出生体重児	57	48	41	項目/年度	2020	2021	2022	小児心臓外科	15	9	8	小児脳神経外科	5	6	3	小児外科	25	47	23	耳鼻科(気管切開)	3	4	4			
保健指導	1,224	1,177	1,131																																																						
母乳相談	114	113	96																																																						
項目/年度	2020	2021	2022																																																						
院内出生	207	229	198																																																						
院外出生	84	63	39																																																						
母体搬送経由	36	30	31																																																						
超低出生体重児	31	22	24																																																						
極低出生体重児	57	48	41																																																						
項目/年度	2020	2021	2022																																																						
小児心臓外科	15	9	8																																																						
小児脳神経外科	5	6	3																																																						
小児外科	25	47	23																																																						
耳鼻科(気管切開)	3	4	4																																																						

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																														
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																																													
		<p>○がん患者数 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>2,926</td> <td>3,069</td> <td>3,342</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>70,467</td> <td>73,399</td> <td>74,646</td> </tr> <tr> <td>がん患者死亡数</td> <td>67</td> <td>62</td> <td>73</td> </tr> </tbody> </table> <p>・医療従事者や一般市民を対象とした研修会やがん事例の検討を行う「がんカンファレンス」、末期がん患者の症例や課題を検討する「病診連携緩和ケアカンファレンス」を感染防止に配慮するためハイブリッド形式で開催し、がん医療に係る啓発を行った。</p> <p>・がん認定看護師及びがん関連分野認定看護師が、がん治療及び療養に携わった。</p> <p>○がん治療及び療養に携わるがん認定看護師等 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん看護専門看護師</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>がん性疼痛看護師認定看護師</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>がん化学療法認定看護師</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>がん放射線療法認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>乳がん看護認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>皮膚・排泄ケア認定看護師</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>摂食嚥下障害認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・身体的・精神的な苦痛を和らげる緩和ケアについて、チームとして取り組んだ。</p> <p>○緩和ケアチームの人員体制等</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・医師7人、看護師4人、薬剤師2人、臨床心理士2人、栄養士2人、リハビリ4人 ・依頼者数 2020：209人 → 2021：220人 → 2022：252人 </td> </tr> </tbody> </table> <p>○治療の実績 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	2020	2021	2022	入院	2,926	3,069	3,342	外来	70,467	73,399	74,646	がん患者死亡数	67	62	73	項目／年度	2020	2021	2022	がん看護専門看護師	1	0	0	がん性疼痛看護師認定看護師	2	1	1	がん化学療法認定看護師	3	3	3	がん放射線療法認定看護師	1	1	1	乳がん看護認定看護師	1	1	1	緩和ケア認定看護師	1	1	1	皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	2	摂食嚥下障害認定看護師	1	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・医師7人、看護師4人、薬剤師2人、臨床心理士2人、栄養士2人、リハビリ4人 ・依頼者数 2020：209人 → 2021：220人 → 2022：252人 	項目／年度	2020	2021	2022							
項目／年度	2020	2021	2022																																																															
入院	2,926	3,069	3,342																																																															
外来	70,467	73,399	74,646																																																															
がん患者死亡数	67	62	73																																																															
項目／年度	2020	2021	2022																																																															
がん看護専門看護師	1	0	0																																																															
がん性疼痛看護師認定看護師	2	1	1																																																															
がん化学療法認定看護師	3	3	3																																																															
がん放射線療法認定看護師	1	1	1																																																															
乳がん看護認定看護師	1	1	1																																																															
緩和ケア認定看護師	1	1	1																																																															
皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	2																																																															
摂食嚥下障害認定看護師	1	1	2																																																															
<ul style="list-style-type: none"> ・医師7人、看護師4人、薬剤師2人、臨床心理士2人、栄養士2人、リハビリ4人 ・依頼者数 2020：209人 → 2021：220人 → 2022：252人 																																																																		
項目／年度	2020	2021	2022																																																															

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																		
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																																
		<table border="1"> <tr> <td>外科的治療</td> <td>1,299 (150)</td> <td>1,200 (120)</td> <td>1,319 (149)</td> </tr> <tr> <td>外来がん化学療法</td> <td>6,469</td> <td>6,549</td> <td>6,599</td> </tr> <tr> <td>入院がん化学療法</td> <td>2,601</td> <td>2,634</td> <td>2,925</td> </tr> <tr> <td>放射線治療</td> <td>471</td> <td>445</td> <td>427</td> </tr> </table> <p>※ () はダ・ヴィンチによる手術《内数》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲノム医療に関しては、がんゲノム連携病院として、21件のがんゲノム遺伝子パネル検査を実施した。 ・がん相談支援センターとして、「相談室」、「退院サポート部」及び「セカンドオピニオン」のがん相談をとりまとめている。 ・がん患者の就労支援として、社会保険労務士及び両立支援促進員による相談をそれぞれ月1回、ハローワーク就労支援員による相談を月1回～2回実施した。 <p>○がん相談支援センターの活動実績 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>917</td> <td>1,127</td> <td>1,018</td> </tr> <tr> <td>就労支援 (がん)</td> <td>54</td> <td>89</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から、がん患者や家族のための「ほっとサロン」を毎日開催し、ピアサポーターによる支援を実施した。また、ほっとサロン学習会を2ヶ月ごとに開催する予定であったが、COVID-19の感染防止のため、実施しなかった。 <p>○ほっとサロン利用人数 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>250</td> <td>719</td> <td>750</td> </tr> </tbody> </table>	外科的治療	1,299 (150)	1,200 (120)	1,319 (149)	外来がん化学療法	6,469	6,549	6,599	入院がん化学療法	2,601	2,634	2,925	放射線治療	471	445	427	項目/年度	2020	2021	2022	がん相談	917	1,127	1,018	就労支援 (がん)	54	89	35	2020	2021	2022	250	719	750			
外科的治療	1,299 (150)	1,200 (120)	1,319 (149)																																				
外来がん化学療法	6,469	6,549	6,599																																				
入院がん化学療法	2,601	2,634	2,925																																				
放射線治療	471	445	427																																				
項目/年度	2020	2021	2022																																				
がん相談	917	1,127	1,018																																				
就労支援 (がん)	54	89	35																																				
2020	2021	2022																																					
250	719	750																																					
07	2 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データ	2 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 ・医師が記載した電子カルテの診療記録について、記述内容等を診療情報管理委員会で監査し、そのレベル向上を図るとともに、病理検査結果、内視鏡検	IV																																				

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																																								
	<p>ータを分析し、医療情報として院内に提供することで、医療の質向上を図るとともに、効果的・効率的な治療の実施を支援する。</p> <p>また、診療録 記載内容の監査、病理検査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、院内の医療従事者の総合的なレベルアップを図り、医療の安全と質の向上に寄与する。</p> <p>診療情報の提供においては、ぎふ清流ネットを活用して、検査結果や放射線検査画像等を迅速に提供し、病診連携などの医療体制の強化を図る。</p>	<p>査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、医療の安全と質の向上に努めた。また、医療画像の提供（8,069件）やぎふ清流ネットの活用により、病診連携の実現に努めた。</p> <p>・診療情報として蓄積されたDPCデータについては、多職種で構成する分析チームにより、分析ソフトによる解析とコンサルタントを活用した13診療科の分析を実施した。また、分析により指摘した事項について、半年後の定量的な評価を継続した。</p> <p>○分析報告会の実施状況とコンサルティング委託費用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分析報告会数</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>定量評価</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>委託費用 (千円)</td> <td>2,777</td> <td>2,999</td> <td>3,109</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2020	2021	2022	分析報告会数	10	9	10	定量評価	○	○	○	委託費用 (千円)	2,777	2,999	3,109																											
項目	2020	2021	2022																																										
分析報告会数	10	9	10																																										
定量評価	○	○	○																																										
委託費用 (千円)	2,777	2,999	3,109																																										
10	<p>2 医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への人的支援を含む診療支援による県全体の医療の確保</p> <p>へき地医療拠点病院として、医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への診療支援（人的支援）を継続して実施する。</p> <p>3 へき地医療対策の支援</p> <p>岐阜県へき地医療支援機構やへき地診療所等からの代診要請等に積極的に対応し、診療支援等の人的支援を行う。</p> <p>さらに、新専門医制度における研修プログラムや岐阜県医師育成・確保コンソーシアムを活用した医師不足解消に向けた取組に積極的に参加するとともに、へき地医療機関と連携し、研修の動機付け・総括等、研修医のへき地医療研修支援を行う。</p>	<p>2 医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への人的支援を含む診療支援による県全体の医療の確保</p> <p>・県立下呂温泉病院や高山赤十字病院等に対して、診療上の人的支援を行った。</p> <p>○他の医療機関への人的支援の状況 (延べ人数) 単位: 人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県立下呂温泉病院 (後期研修医を含む※1)</td> <td>888</td> <td>948</td> <td>675</td> </tr> <tr> <td>高山赤十字病院</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>下呂市立金山病院</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>県立多治見病院</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>国保津保川診療所</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>国保洞戸診療所</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>国保久々野診療所※2</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>郡上市民病院</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>976</td> <td>1,033</td> <td>803</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	県立下呂温泉病院 (後期研修医を含む※1)	888	948	675	高山赤十字病院	14	14	58	下呂市立金山病院	12	12	12	県立多治見病院	1	1	4	国保津保川診療所	—	—	12	国保洞戸診療所	12	11	—	国保久々野診療所※2	—	1	1	郡上市民病院	49	46	41	合計	976	1,033	803	III		<p>医師不足地域への医師派遣、へき地医療支援は十分とは言えない。仮に医師の派遣により一部の科の診療実績が落ちても、県全体の医療向上を使命とする県総として、よしとしてもよいのではないかと。</p>
項目/年度	2020	2021	2022																																										
県立下呂温泉病院 (後期研修医を含む※1)	888	948	675																																										
高山赤十字病院	14	14	58																																										
下呂市立金山病院	12	12	12																																										
県立多治見病院	1	1	4																																										
国保津保川診療所	—	—	12																																										
国保洞戸診療所	12	11	—																																										
国保久々野診療所※2	—	1	1																																										
郡上市民病院	49	46	41																																										
合計	976	1,033	803																																										

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証									
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見								
		※1 後期研修医数に退職派遣した専攻医を含む。 ※2 岐阜県へき地医療支援機構依頼分 3 へき地医療対策の支援 ・岐阜県へき地医療支援機構からの代診要請に対して対応可能な体制を確保し、依頼があった際には派遣を行った。 ・新専門医制度による専門研修プログラムに基づき、一定期間下呂温泉病院に対して専攻医を退職派遣した。 ○下呂温泉病院への派遣状況 (延べ人数) 単位: 人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種・年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内科医 (※)</td> <td>730</td> <td>912</td> <td>639</td> </tr> </tbody> </table> ※ 後期研修医数や退職派遣した専攻医を含む。	職種・年度	2020	2021	2022	内科医 (※)	730	912	639			
職種・年度	2020	2021	2022										
内科医 (※)	730	912	639										
12	2 保健医療、健康管理等の情報提供 広報誌「けんこう」や地域医療連携センター部 広報誌「れんけい」の定期発行、当センターを紹介した「診療案内」の適宜改定や病院ホームページでの掲載等を通じて、病院が有する保健医療情報を積極的に提供する。	2 保健医療、健康管理等の情報提供 ・広報誌「けんこう」及び地域医療連携誌「れんけい」に加え、新たな広報誌「つなぐ」をそれぞれ2回発行した。 ・プレス発表や取材協力等マスメディアを活用した情報発信を行った。 ・コロナ禍での情報提供のあり方を検討し、WEBを中心とした疾患啓発を行うことで地域全体の新規患者を掘り起こすことを目的とした情報ネットワークの構築に向けて取り組みを継続した。 ・上記の取り組みやCOVID-19関係の情報を迅速に公開すること等により、TOPページのアクセス数について高い数値を維持できた。 ○ホームページアクセス数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TOP ページ</td> <td>363,560</td> <td>357,316</td> <td>357,836</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	TOP ページ	363,560	357,316	357,836	IV		
項目/年度	2020	2021	2022										
TOP ページ	363,560	357,316	357,836										
13	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 地域の災害拠点病院や消防機関と連携し、災害医療の教育・研修・訓練を実施する。また、既存の食料等の優先納入契約を継続するとともに必	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 ・例年、他病院と協力し、災害対策訓練等に被災情報等の情報共有訓練を併せて実施しているが、COVID-19の影響による災害対策訓練の自粛に伴い実施を見送った。次年度については、災害対策訓練を自粛する状況であっても、個別に代替訓練を実施する予定である。	IV										

項目 No.	R 4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証					
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見				
	要に応じて見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事件現場における傷病者の発生に対し、応急的な治療を行うことで救命率を向上させるため、岐阜県警察と事件現場医療派遣チーム（IMAT）の運用に関する協定を継続した。 							
15	<p>2 診療情報のバックアップシステムの適正管理</p> <p>大規模災害やシステム障害に備え、院内2か所の電算室において二重化している診療情報データや遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努める。</p> <p>また、各部署へ配備した診療情報参照用パソコン（ローカルSS-MIXストレージ）の適正な維持管理に努める。</p>	<p>2 診療情報のバックアップシステムの適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害やシステム障害に備え、院内2か所の電算室と遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努めた。また、各部署へ配備した診療情報参照用パソコン（ローカルSS-MIXストレージ）の適正な維持管理に努めた。 	IV						
16	<p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <p>2019年度末から発生しているCOVID-19に対して、感染が収束するまでの間岐阜県の要請に応じて、必要な病床を確保し、患者の受入れに必要な人員体制の整備、物資等の確保を行う。</p> <p>指定地方公共機関として、新型インフルエンザ等対策特別措置法及び業務計画に定めるところにより、岐阜県、関係市町及び医療機関と相互に連携・協力し、新型インフルエンザ等対策の実施に努める。</p> <p>また、当センターの受入れ体制を確保するため、必要な物資及び資材の備蓄・整備・点検並びに施設及び設備の整備・点検を行う。</p>	<p>1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年2月に立ち上げたCOVID-19対策本部を継続し、病院幹部と各部門責任者、感染対策部メンバーなどにて月2回開催した。 ・診療・検査医療機関として、発熱外来を設置し発熱患者のトリアージを継続した。 ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、5階西病棟をCOVID-19患者専用病棟として確保することに加え、診療体制を患者数に応じたものに強化した。 <p>○COVID-19診療体制</p> <table border="1"> <tr> <td>基本チーム</td> <td>リーダー(感染症内科 or 呼吸器内科) 医師1名(感染症内科 or 呼吸器内科) 専攻医2名(内科系・外科系) 循環器内科医師1名(ECMO対応)</td> </tr> <tr> <td>拡充チーム</td> <td>上記、基本チームの体制に加え、 専攻医1名(小児・産科系) 重症管理医師1名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・マスク・ガウン・消毒薬などの必要物資の調達・備蓄に努めた。 ・通院中の外来患者、入院患者に対するCOVID-19ワクチン接種（ファ 	基本チーム	リーダー(感染症内科 or 呼吸器内科) 医師1名(感染症内科 or 呼吸器内科) 専攻医2名(内科系・外科系) 循環器内科医師1名(ECMO対応)	拡充チーム	上記、基本チームの体制に加え、 専攻医1名(小児・産科系) 重症管理医師1名	IV		
基本チーム	リーダー(感染症内科 or 呼吸器内科) 医師1名(感染症内科 or 呼吸器内科) 専攻医2名(内科系・外科系) 循環器内科医師1名(ECMO対応)								
拡充チーム	上記、基本チームの体制に加え、 専攻医1名(小児・産科系) 重症管理医師1名								

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																			
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																		
		<p>イザー) に取り組んだ。また県からの依頼によりアストラゼネカ社製ワクチンの接種も実施し、ファイザー製ワクチンの接種ができない方でも接種できるよう対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19 院内感染を未然に防止するため、職員からの発熱等の報告に対して迅速に対応する体制を整え、各部署から毎日就業制限者の報告を求め、状況把握に努めた。 ・ 外来や病棟で COVID-19 陽性の患者や職員が出た際には、周囲の患者、職員の接触状況を聴取して集団検査を実施し、感染対策部の主導のもと、看護部、各診療科の医師、各部門・部署の所属長などが協力して行う体制を整備して、感染拡大を防止できた。 ・ 院内職員及びその家族に対する COVID-19 ワクチンの接種を実施し、安全な医療を提供できる体制を整えた。 																					
17	1 医療型障害児入所施設の運営の継続 当センターが有する専門医療機能を活用し、濃厚な医療的ケアを要する重症心身障がい児に対する専門的な医療的ケアを継続する。		III		受け入れ機関が少ない中、重要な役割をしており、今後のさらなる運営を希望する。																		
18	1 レスパイトケアのための短期入所機能の継続 医療型障害児入所施設内の3床(空床利用)による短期入所機能を継続する。	<p>1 レスパイトケアのための短期入所施設の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重症心身障がい児(者)の在宅療養が増える傾向にあり、保護者等の介護の負担軽減と児(者)への良好な療養環境の提供を目指して、段階的に短期入所を増床して受入人数を増やした。加えて、COVID-19 流行下の受入制限による影響も軽減されたことから、過去2年に比べ定員に対する利用率(入所率)も大幅に改善した。 <p>○短期入所定員数(空床利用型)の推移</p> <table border="1"> <tr> <td>2016.7~2017.10</td> <td>定員2人</td> </tr> <tr> <td>2017.11~2023.1</td> <td>定員3人</td> </tr> <tr> <td>2023.2~2023.4</td> <td>定員4人</td> </tr> </table> <p>○短期入所施設の利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>契約者数</td> <td>92人</td> <td>97人</td> <td>106人</td> </tr> <tr> <td>利用延人員</td> <td>97人</td> <td>123人</td> <td>172人</td> </tr> </tbody> </table>	2016.7~2017.10	定員2人	2017.11~2023.1	定員3人	2023.2~2023.4	定員4人	項目/年度	2020	2021	2022	契約者数	92人	97人	106人	利用延人員	97人	123人	172人	IV		支える家族の心身の負担は大きく、このようなサポートは大切と、感謝している。
2016.7~2017.10	定員2人																						
2017.11~2023.1	定員3人																						
2023.2~2023.4	定員4人																						
項目/年度	2020	2021	2022																				
契約者数	92人	97人	106人																				
利用延人員	97人	123人	172人																				

項目 No.	R 4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				評価委員会の検証																																			
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 				自己 評価	評価 提案	意見																																	
		<table border="1"> <tr> <td>利用延日数</td> <td>465日</td> <td>541日</td> <td>809日</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>42.5%</td> <td>49.4%</td> <td>70.1%</td> </tr> <tr> <td>予約率</td> <td>85.5%</td> <td>78.7%</td> <td>82.4%</td> </tr> </table>	利用延日数	465日	541日	809日	利用率	42.5%	49.4%	70.1%	予約率	85.5%	78.7%	82.4%																											
利用延日数	465日	541日	809日																																						
利用率	42.5%	49.4%	70.1%																																						
予約率	85.5%	78.7%	82.4%																																						
20	<p>1 人員配置の検証及び弾力的運用</p> <p>各職種の職員1人あたりの医業収入推移等を検証した上で、医療需要の動向や経営状況の変化に迅速かつ的確に対応した診療科の変更、各職種の人員配置を弾力的に行う。</p>	<p>1 人員配置の検証及び弾力的運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度をベースとした各職種の職員1人あたりの医業収入推移を検証し、医療需要と経営状況のバランスを検討した上で、各職種の人員配置を弾力的に行った。 <p>○各職種の職員1人あたりの医業収入 単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>98.1</td> <td>107.3</td> <td>105.4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>95.1</td> <td>102.1</td> <td>105.1</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>114.9</td> <td>113.2</td> <td>110.4</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>81.7</td> <td>94.7</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>81.5</td> <td>80.8</td> <td>74.8</td> </tr> <tr> <td>リハビリ技師</td> <td>78.2</td> <td>77.7</td> <td>71.7</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>114.0</td> <td>106.9</td> <td>97.3</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>38.3</td> <td>41.5</td> <td>31.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※数値は2015年度をベースとした伸び率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19専用病棟に対して、岐阜圏域のフェーズに応じて他部署の医師や看護師を柔軟に配置した。 	項目/年度	2020	2021	2022	医師	98.1	107.3	105.4	看護師	95.1	102.1	105.1	薬剤師	114.9	113.2	110.4	臨床検査技師	81.7	94.7	93.2	放射線技師	81.5	80.8	74.8	リハビリ技師	78.2	77.7	71.7	管理栄養士	114.0	106.9	97.3	臨床工学技士	38.3	41.5	31.8	IV		
項目/年度	2020	2021	2022																																						
医師	98.1	107.3	105.4																																						
看護師	95.1	102.1	105.1																																						
薬剤師	114.9	113.2	110.4																																						
臨床検査技師	81.7	94.7	93.2																																						
放射線技師	81.5	80.8	74.8																																						
リハビリ技師	78.2	77.7	71.7																																						
管理栄養士	114.0	106.9	97.3																																						
臨床工学技士	38.3	41.5	31.8																																						
21	<p>1 人事評価システムによる公平かつ客観的な人事制度の運用</p> <p>人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価するとともに、職員本人へ評価結果をフィードバックすることにより、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事</p>	<p>1 人事評価システムによる公平かつ客観的な人事制度の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価し、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努めた。 ・目標評価については、目標の困難度と達成度を判定することにより、公平かつ客観的な評価を図った。また、6月支給の勤勉手当において、目標評価の成績優秀者にはその結果を手当に反映した。 	IV																																						

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																												
	制度の運用に努める。																																
22	<p>1 事務部門職員の確保及び育成 経営管理機能を強化するため、病院特有の事務に幅広く精通した職員を計画的に確保・育成する。</p> <p>また、各分野毎の専門性の向上を図るため、診療報酬等の医事業務や診療情報分析、病院経営に係る財務経営分析、危機管理等専門性の高い業務に関する研修への参加及び診療情報管理士や医療経営士等の病院運営に寄与する資格取得を支援する。</p>	<p>1 事務部門職員の確保及び育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上のため、職務に関連する研修の実施や資格取得を支援する「事務局職員人材育成計画」に沿って、医療経営士の資格取得に向けた研修を受講させた。 <p>○事務職員の状況（年度末時点） 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロパー職員</td> <td>67</td> <td>67</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>うち、診療情報管理士</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>うち、医療経営士</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>うち、院内がん登録実務中級認定者</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>県派遣職員</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>70</td> <td>69</td> <td>69</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	2020	2021	2022	プロパー職員	67	67	67	うち、診療情報管理士	10	9	9	うち、医療経営士	2	2	2	うち、院内がん登録実務中級認定者	2	2	2	県派遣職員	3	2	2	合計	70	69	69	IV		
項目／年度	2020	2021	2022																														
プロパー職員	67	67	67																														
うち、診療情報管理士	10	9	9																														
うち、医療経営士	2	2	2																														
うち、院内がん登録実務中級認定者	2	2	2																														
県派遣職員	3	2	2																														
合計	70	69	69																														
23	<p>1 業務執行におけるコンプライアンスの徹底 医療法をはじめとする国の法令や関係規程、法人が定める倫理方針や各種規程を遵守することで、保健所や厚生局からの立入検査及び指導に適切に対応する。</p> <p>また、監事監査、内部監査、会計監査人監査等の実施により、チェック体制を確立し、コンプライアンスを確実なものとする。</p> <p>岐阜県情報公開条例に基づく公文書の公開及び岐阜県個人情報保護条例その他法人規程に基づくカルテ等医療情報の開示を着実にを行い、医療の透明性を確保するとともに、医療情報提供の環境を整備する。</p>	<p>1 業務執行におけるコンプライアンスの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員に対して個人情報保護に関する研修を行った。 ・全職員を対象にした個人情報保護に関する研修をオンデマンド形式で複数回実施し、トータルで1,192人が参加した。 ・医療倫理に関する研修をオンデマンド形式で配信し、1,415人の職員の参加を得た。 <p>○各種研修受講延べ数 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人情報保護</td> <td>1,055</td> <td>996</td> <td>1,192</td> </tr> <tr> <td>医療倫理</td> <td>1,380</td> <td>1,430</td> <td>1,415</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・監事監査（隔月実施）、会計監査人監査（年4回実施）及び内部監査の実施により、コンプライアンスを徹底した。 ・患者や家族からの請求による個人情報の開示を適切に行った。 <p>○カルテ開示請求・開示件数 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	2020	2021	2022	個人情報保護	1,055	996	1,192	医療倫理	1,380	1,430	1,415	項目／年度	2020	2021	2022					IV	III	個人情報保護に関する研修の受講率のさらなる向上が望まれる。								
項目／年度	2020	2021	2022																														
個人情報保護	1,055	996	1,192																														
医療倫理	1,380	1,430	1,415																														
項目／年度	2020	2021	2022																														

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																										
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見																								
		請求件数	185	244	226																										
		開示件数	180	234	223																										
25	<p>1 調達効率化及び適正な契約事務の実施</p> <p>業務内容の集約化・簡素化・迅速化・費用削減等の提案を評価するプロポーザル方式による業者選定をはじめ、複数年契約や関連性のある業務の包括委託化等多様な契約手法の導入を検討する。また、複数年契約を行うことによるメリットの有無を検討し、メリットがあるものについては、積極的に複数年契約の締結を行う。</p>	<p>1 調達効率化及び適正な契約事務の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析等を行うことで、薬品や診療材料の購入価格や委託業務の複数年契約等の経営改善すべき点の把握に努め、効率的な病院運営を図るための方策等を検討した。 ・複数メーカーの機種選定を勧め、ベンチマークを利用した交渉による医療機器の購入を行い、当初の予定金額より年間約6千万円のコスト削減ができた。 ・診療材料について、ベンチマークを活用して新規採用品目の価格を抑えるとともに、既存使用品目も継続して価格交渉を行い、節減効果を維持した。 ・医薬品について、経費圧縮等に関するアドバイザーの活用により、継続的な価格交渉を行い、経費削減を図った。 ・複数年契約が終了する一部の業務委託において、その評価を行うとともに、経営的にメリットのある契約手法を検討し、次期契約の締結を行った。 <p>○複数年契約の推移 単位：件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>契約数</td> <td>16</td> <td>21</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>			項目/年度	2020	2021	2022	契約数	16	21	36	IV																		
項目/年度	2020	2021	2022																												
契約数	16	21	36																												
26	<p>2 医療資源を最大限活用した施設基準等の適正管理</p> <p>収益の向上を図るため、2022年度診療報酬改定を踏まえ、人的な医療資源を最大限活用した新たな施設基準の取得を積極的に検討する。また、既に届け出た施設基準やDPC病院群の要件指標を定期的に確認し、その安定的な維持に努める。</p> <p>3 未収金の発生防止対策等</p> <p>診療費に係る未収金の発生防止対策として、緊急に入院となった患者への面談を実施することで保険確認や支払相談に早期に着手し、未収金発生未然防止を徹底する。</p>	<p>2 医療資源を最大限活用した施設基準等の適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院入院診療加算（紹介率：50%以上、逆紹介率：70%以上）の算定基準（要件）を大幅に超えることができた。 ・DPC特定病院群の各種要件（診療密度、外保連指数、内保連疾患割合）について、毎月状況を確認し、各数値の維持に努めた。 <p>○各種指標の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>70.0%</td> <td>71.9%</td> <td>67.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>97.6%</td> <td>110.5%</td> <td>107.9</td> </tr> <tr> <td>診療密度</td> <td>1,329.9</td> <td>1,427.4</td> <td>1,378.9</td> </tr> <tr> <td>外保連指数</td> <td>15.52</td> <td>15.53</td> <td>15.63</td> </tr> <tr> <td>内保連疾患割合</td> <td>2.4%</td> <td>3.1%</td> <td>2.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 未収金の発生防止対策等</p>			項目/年度	2020	2021	2022	紹介率	70.0%	71.9%	67.2	逆紹介率	97.6%	110.5%	107.9	診療密度	1,329.9	1,427.4	1,378.9	外保連指数	15.52	15.53	15.63	内保連疾患割合	2.4%	3.1%	2.8%	IV	V	<p>コロナも関連して一般的には診療抑制傾向が続く中、非常に高い入院・外来診療単価の獲得、適切な病棟利用率等により得られる収入増は特筆すべき業績である。</p>
項目/年度	2020	2021	2022																												
紹介率	70.0%	71.9%	67.2																												
逆紹介率	97.6%	110.5%	107.9																												
診療密度	1,329.9	1,427.4	1,378.9																												
外保連指数	15.52	15.53	15.63																												
内保連疾患割合	2.4%	3.1%	2.8%																												

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	評価 提案	意見																												
	<p>また、支払に関する相談に応じる体制の確保に加え、現金又はクレジットカード以外の支払手法の拡大を検討する。</p> <p>やむなく未収金となった場合には、支払計画の作成を促すとともにその履行を確認し、早期の督促、催告を実施する。あわせて回収が困難と見込まれる未収金については、平成22年度末に開始した債権回収業務委託（弁護士法人）を引き続き実施し、効果的、効率的な未収金回収に努める。</p>	<p><発生防止></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院説明の際に、入院決定時に概算費用の提示や福祉制度の説明などを行った。また、入院患者には原則として限度額認定証の提示を求めていることを説明し、その手続きを依頼した。 ・救急搬送患者に対しては、医療相談員が身元確認、保険確認を早期に行い、医療保険制度の活用を紹介するなど高額な患者負担額とならないよう努めた。 ・出産に伴う入院費については、出産一時金直接払制度を利用していただくよう徹底を図った。制度の利用が困難な事案については、医療相談員が早期に介入し、退院時の支払が出来るよう支援を行った。 <p><回収></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月2回、定期的に督促状を發布し、早期に未収金回収に着手した。 ・督促状發布後、随時催告状を発送するとともに必要に応じ夜間電話催告や臨宅催告を行った。 ・未納者が受診した際には、面談による納付催告を実施した。 ・回収困難な未収金について、弁護士法人に回収業務を委託し、回収の実績を上げた。 ・診療費を分納により支払っている患者について、2020年8月より直接納付から金融機関口座振替への切替を進める取り組みを継続し、確実な収納に努めた。 <p>○回収実績（年度末現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>累積委託金額 (単位：千円)</td> <td>199,628</td> <td>201,662</td> <td>205,233</td> </tr> <tr> <td>累積回収金額 (単位：千円)</td> <td>91,071</td> <td>94,062</td> <td>96,006</td> </tr> <tr> <td>累積回収率 (単位：%)</td> <td>45.6</td> <td>46.6</td> <td>46.8</td> </tr> <tr> <td>単年度回収金額 (単位：千円)</td> <td>5,766</td> <td>2,986</td> <td>1,943</td> </tr> </tbody> </table> <p>○未収金発生状況（翌年度5月末現在）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2020	2021	2022	累積委託金額 (単位：千円)	199,628	201,662	205,233	累積回収金額 (単位：千円)	91,071	94,062	96,006	累積回収率 (単位：%)	45.6	46.6	46.8	単年度回収金額 (単位：千円)	5,766	2,986	1,943		2020	2021	2022							
項目/年度	2020	2021	2022																														
累積委託金額 (単位：千円)	199,628	201,662	205,233																														
累積回収金額 (単位：千円)	91,071	94,062	96,006																														
累積回収率 (単位：%)	45.6	46.6	46.8																														
単年度回収金額 (単位：千円)	5,766	2,986	1,943																														
	2020	2021	2022																														

項目 No.	R 4年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																										
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 					自己 評価	評価 提案	意見																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>件数</th> <th>金額 (千円)</th> <th>件数</th> <th>金額 (千円)</th> <th>件数</th> <th>金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過年度分</td> <td>348</td> <td>42,633</td> <td>289</td> <td>38,748</td> <td>386</td> <td>24,469</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>232</td> <td>15,183</td> <td>281</td> <td>22,686</td> <td>332</td> <td>41,398</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>580</td> <td>57,816</td> <td>570</td> <td>61,434</td> <td>718</td> <td>65,867</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 効率的な資金運用 ・金利の動向や保有資金の状況から、今年度は新たな債券の購入又は保有債券の売却は行わず、現状維持とした。保有している債券から発生した今年度の利息は、約8千万円だった。</p>		件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	過年度分	348	42,633	289	38,748	386	24,469	現年度分	232	15,183	281	22,686	332	41,398	合計	580	57,816	570	61,434	718	65,867			
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)																											
過年度分	348	42,633	289	38,748	386	24,469																											
現年度分	232	15,183	281	22,686	332	41,398																											
合計	580	57,816	570	61,434	718	65,867																											
27	<p>1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底</p> <p>医薬品及び診療材料については、ベンチマーク及び外部アドバイザーの活用により、価格交渉を行うとともに、より安価で適正な品質の同種同効品への切り替えを推進し、購入費の削減に努める。</p> <p>また、物流システムによる医薬品及び診療材料の定数設定・在庫管理を行いながら、定期的に棚卸を実施し、適正な管理を行う。</p>	<p>1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品については、アドバイザー活用による情報収集により価格交渉を実施し、年間薬価差益が約2億9千万円となった。 ・診療材料については、ベンチマークを活用して価格交渉を実施し、当初の予定金額より年間約3,300万円のコスト削減ができた。 ・各部署における診療材料の定数配置について、継続的に品目及び数量の見直しを行い、効率的な管理を推進した。 <p>○医薬収益に対する材料費比率 単位：％</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材料比率 ※1</td> <td>30.4</td> <td>30.9</td> <td>30.7</td> </tr> <tr> <td>(内 薬品費)</td> <td>16.2</td> <td>16.2</td> <td>16.4</td> </tr> <tr> <td>(内 診療材料費)</td> <td>14.2</td> <td>14.6</td> <td>14.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 重症心身障がい児施設を除く</p>	項目／年度	2020	2021	2022	材料比率 ※1	30.4	30.9	30.7	(内 薬品費)	16.2	16.2	16.4	(内 診療材料費)	14.2	14.6	14.3	IV														
項目／年度	2020	2021	2022																														
材料比率 ※1	30.4	30.9	30.7																														
(内 薬品費)	16.2	16.2	16.4																														
(内 診療材料費)	14.2	14.6	14.3																														
28	<p>予算（人件費の見積含む）、収支計画及び資金計画</p> <p>「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、経常収支比率100%以上、医薬収支比率100%以上及び職員給与費対医薬収益比率50%以下を達成する。</p>	<p>中期計画上の取組を確実に実施し、業務運営の改善及び効率化を進めたことにより、経常収支比率98.8%、医薬収支比率106.1%、職員給与費対医薬収益比率51.7%となり、医薬収支比率において目標を達成することができた。</p> <p>○経常収支比率・医薬収支比率・職員給与費対医薬収益比率 単位：％</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>97.8</td> <td>102.8</td> <td>98.8</td> </tr> <tr> <td>医薬収支比率 ※</td> <td>103.0</td> <td>108.3</td> <td>106.1</td> </tr> </tbody> </table>	項目／年度	2020	2021	2022	経常収支比率	97.8	102.8	98.8	医薬収支比率 ※	103.0	108.3	106.1	III	IV	コロナの影響、エネルギー価格等を考慮すれば、なかなか到達できない素晴らしい成績である。																
項目／年度	2020	2021	2022																														
経常収支比率	97.8	102.8	98.8																														
医薬収支比率 ※	103.0	108.3	106.1																														

項目 No.	R 4 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証			
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	評価 提案	意見	
		職員給与費対医業収益 比率（人件費比率）※	54.2	49.6	51.7			
		※重症心身障がい児施設を除く						
29	<p>2 働き方改革の実現に向けた取組</p> <p>策定した「働き方改革推進計画」に基づき、タイムレコーダー等の活用により労務管理を適正に行うとともに、働き方改革の実現に向けた医師事務作業補助者の拡充及び能力開発と処遇改善をはじめ、看護補助者の安定確保、特定行為看護師やコメディカルの活用等によるタスクシフト／シェア及び電子カルテシステム更新等による業務効率化を推進する。</p>	<p>2 働き方改革の実現に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の労働時間の適正な把握に向けて、タイムレコーダー（IDカードによる打刻システム）を継続した。 ・医師の労働時間短縮に向け、「医師の働き方改革に関するワーキンググループ」会議における議論を踏まえ業務と自己研さんの区分を策定した。 ・医師の負担軽減に向け、医師と医療支援部門職員との間で可能タスク・シフト（シェア）を推進した。 ・医師の業務負担軽減に必要な特定行為看護師を自前で育成するため、看護師特定行為研修指定研修機関としての役割を果たした。 ・医師の業務負担軽減に向けたタスク・シフトを進めるため、医師事務作業補助者の定着に向けた処遇改善や人員配置のバックアップ体制を整えた。 	IV					